

◀ 展示報告 ▶

第84回企画展 遠刈田吉郎平系列 名品こけしとその流れ

令和5年12月1日(金)～令和6年3月31日(日)



遠刈田系こけしの発祥地は宮城県蔵王町遠刈田新地で、遠刈田温泉に隣接する場所に位置します。こけしが作られるようになったのは、資料や言い伝えから文化・文政の頃(1804-1829)の頃と推測されます。この頃は世の中が安定し、一般庶民が温泉の湯治に出かけるようになってきた時代でした。こけしは湯治土産のおもちゃとして作られ、温泉街で売られるようになったと考えられています。

遠刈田系こけしは大きな頭に細めの胴、三日月形の目が特徴で、頭部には紅い放射線状の髪飾り模様が描かれます。胴模様は菊を主とし、桜、梅、木目など多彩で、その華麗な姿は伝統こけし中随一と言われます。また、こけし産地としての歴史も古く、江戸後期からこけしが作られていたと考えられており、弥治郎、蔵王、肘折、南部など他系統のこけしに形成に大きな影響を及ぼしました。

現在、遠刈田系こけしの流れは、大きく吉郎平系列と周治郎系列の二つに分けることができます。今回の企画展では、吉郎平系列の名品こけしとその流れをご紹介します。

ミニ企画展 こけし雛展

令和6年1月23日(火)～3月31日(日)

東北各地のこけし工人による手作りの雛人形約90組をご紹介します。こけし雛は個性的な作品が多く、伝統の様式や模様を取り入れた作品もあれば作者の自由な発想で作った作品もあります。

